

市民参加の裾野拡大の 進捗状況について

令和5年1月27日

1 市民参加の裾野拡大 進捗（公共の授業との連携）

○令和4年11月

教育委員会事務局 指導部 学校指導課（高校教育担当）に

- ・ 高校連携授業案 → 参考資料3 参照
- ・ 高校連携授業案（ライト版） → 参考資料4 参照
- ・ リスト → 参考資料5 参照

の3点を送付。

○令和4年12月

公民科教員3名と学校指導課の指導主事により、高校連携授業案を基に具体的な検討を実施。

※ 別途、市立高校社会科研究会会長より、市立高校地歴公民科教員全員に「案」を送付、意見募集中。

○令和 5 年 1 月

1 2 月に実施された具体的な検討について、意見を集約した資料の提供。 →参考資料 6 参照

(主な意見)

- ・ 「ライト版」では、深い学びに繋がらない。
- ・ 公民科目の授業（「公共」など）で実施するとしたら 3 コマ程度で実施する案をベースに考えたい。
- ・ 現場としては、外部の方に学校に来てもらい、生徒と直接やり取りする時間が非常に貴重。外部の方にしかできないことに重点を置くプログラムにしたい。
- ・ 「現在、検討中のこと」「直近に何等か行われる想定があること」等、具体的なテーマで実施し、生徒の意見がどこで検討され、反映されるか分かる形になることが望ましい。

(今後の進め方)

- ・令和4年度中

令和5年度のトライアル授業に向けて、提示する課題を検討。

- ・令和5年度

トライアル授業の実施（1校）

- ・令和6年度～

授業のパッケージ化

2 市民参加の裾野拡大 進捗（京都奏和高校との連携）

○令和5年1月

京都奏和高校と「ビジテック」の授業連携について協議。

（令和5年度から新高校3年生向けに開講する授業での連携）

・京都奏和高校内での検討状況

参考資料7「ビジテックについて（京都奏和高校作成）」参照

⇒年間の授業スケジュールに対して、校外連携のご希望を示していただいた。

- 1 ファシリテーター（篠原副座長）
- 2 アクションプランの内容や進行への確認・評価
（本市職員、市民参加推進フォーラム委員等）
- 3 授業への協力者紹介（お宝バンク提案団体の紹介可）

(参考資料)

市立高校ヒアリング結果 (令和3年度実施分)

伏見工業高校・京都奏和高校

【特色，方針】

・京都奏和高校は，多様な学習ニーズに応える新たな定時制高校として今年の４月に開校。様々な困りがありながらも，集団で学びたいという生徒を受け入れている。

【取組内容】

・伏見工業高校は，現在，生徒募集を終了し，２，３，４年生のみ在籍。定時制で府内唯一の工業科。まちづくり，ものづくりに関心を持つ生徒も多く，土木コースの学生が「鴨川運河」の深草エリアを中心に活動する地域団体と連携した実績がある。

・まちづくり活動に興味のある学生を有志で募って活動する深草クラブという部活動がある。深草商店街の朝市に部活動として参加した。

・京都奏和高校は，社会の一員として自立できる人材の育成を目指し，様々な人と出会うことを大切にしている。社会に出た時に困らないための経験をさせるべく，学校外の方との関わりを強く意識している。

・中小企業家同友会にインクルーシブ部会があり，夏にインターンシップに１０数名参加したり，社会人セミナーも実施。２月には企業の方との交流会を実施予定。

・ユースサービス協会には，集団で学ぶことを大事にしてもらおうと，生徒向けのレクリエーション企画やイベントを実施してもらっている。

・学生ボランティアが授業のサポートを行っている。

・キャリア研究という授業がある。自分のことを知り，社会での自分のあり方を知る，社会に出る準備をするというステップで考えている。

・１年生の現代社会の授業で，模擬選挙を実施した。

【その他，課題等】

・生徒が就業した後も，社会人として育ててもらえる企業とつながりたいし，つないでいきたい。

・就職に向けては，自分の得意分野を活かして活躍している社会人の先輩の話が聞けると良い。

京都工学院高校

【特色・方針】

- ・「無から有を作り出す」をスローガンに掲げ、科学技術で地域貢献することを目指している。

【取組内容】

- ・総合的な探究の時間を活用し、１年生はクラス単位で、２年生は学科を超えてゼミ活動を行う。
- ・プロジェクト工学科は２年生以降、建築・都市・機械加工・ロボット・電気・電子の専門領域に分かれるが、領域横断的な学びが本校の特色である。
- ・建設局の依頼でVRを使って災害対策を地域に説明する機会があり、VRの製作を担った。
- ・自主防災会や企業との連携で、かまどベンチを耐火レンガで作った。
- ・複数の大学と連携し授業を行っている。
- ・深草支所の若手職員の協力でグループワークを実施している。
- ・地域のお祭りや地蔵盆などにも協力している。

- ・課外の実践活動として深草トレイルの清掃活動に参加し、ごみを拾って終わりではなく、地域の実態を学びにつなげている。

- ・２年生で企業への３日間のインターンシップがある。約９０社にご協力いただいている。

- ・企業側との連携事例は他にもあり、若手の社員研修の一環にもなるという声をいただいている。

【その他、課題等】

- ・休日に教員が引率する時間と労力は、やりがいとセットになる。教員も生徒もメリットを感じると負担にならないケースが多い。

- ・生徒の成長のために、同じベクトルを向いて企業や公的機関と関係ができると良い。

- ・市立高校が連携し、類似した取組を取りまとめることができれば、各校が年度ごとに順繰りに担当者を出すなど、コストを分散してよりよい取組にできる可能性がある。

西京高校

【特色・方針】

・「エンタープライズ教育をベースとした社会人の育成」を特色とする。

【取組内容】

・総合的な探究の時間は、環境問題や教育問題など多岐にわたる課題研究をグループワークを中心にゼミ活動を通じて実施している。

・自主性を伸ばす活動を通して、当事者意識の向上や社会に出る上で必要なスキル獲得の練習につながっている。

・コロナの影響で、国内でのフィールドワークとなり、国内の７地域を訪れるコースをゼロから生徒が作りあげた。

・行先は、企業、被災地、高校・大学など、生徒が決めている。事前学習で仮説を立てて、フィールドワークを行い、現場に行き、どう考え方が変わったのか、どう活かしていくのか、自身の考え方の変容を中心に発表会も実施している。

・フィールドワーク委員会を立ち上げて、各コースの活動内容や訪問先の設定など生徒自身で検討して企画・運営している。これらの活動を通して、興味関心を広げて、経験を積んでいってもらう。

・８つのゼミ活動（人文科学、情報学、社会科学、国際学、経済学、健康科学、生命科学、環境科学）を用意しており、各ゼミを先生２名と大学生や大学院生のティーチングアシスタントが担当している。

・生徒自治会でプロジェクトを主催し、民間企業と連携して、オリジナルの「西京飴」を開発・販売した。売上は生徒の判断で京都市に寄付した。

【その他、課題等】

・社会のしくみを生徒が知る機会がない。例えば、教育機関だけでも国（文科省）、京都市（教育委員会）、民間などいろいろな機関がある。

・市民参加を考える場合には、授業の中では難しいため、自主的にいきたいという生徒を手上げ方式で募って実施することになる。

銅駝美術工芸高校

【特色・方針】

・ 市政参加に特化した特色・方針としては、「社会に開かれた教育課程」を重視し、生徒には知識や技術を身につけるだけでなく、美術を通して社会とどう関わっていくのかを意識した教育活動に取り組んでいる。

【取組内容】

・ １年生では総合的な探究の時間において、美術館や博物館と連携し、展覧会を企画することで視野や考え方を広げたり、アートがこれからの社会で果たす役割などの学びを深めている。また、２年生では企業と連携し、美術だけでなく、様々な分野について理解を深め課題解決する取組を行っている。

・ ２、３年のデザイン専攻では、生徒が商店に出向き、パッケージデザインの制作や、企業の雇用促進ポスター、パンフレットの制作等の取組を行っている。

・ 生徒の作品を高齢者施設や小学校に展示し、大変好評を得ている。

・ ボランティア活動として、中京警察署の依頼に対して、啓発ポスターやチラシのデザインを作成した。

・ 生徒の学びにつながるような依頼については、校内で精査して受けるようにしている。

【その他、課題等】

・ 現在、連携があまり進んでいない幼稚園、保育園、小学校、中学校との連携を強めていきたいと考えている。

・ ２０２３年４月、京都駅東側、京都市立芸術大学（京都芸大）に隣接した地に移転するため、大学と連携した様々な取組を行う予定である。

・ 制作活動が社会とつながりにくい分野の専攻もあるため、積極的にその機会を創出することが必要と考えている。

・ 外部連携先との渉外や企画・調整の中心となる分掌を早期につくることが喫緊の課題である。

京都堀川音楽高校

【特色・方針】

- ・音楽の専門教育を行う高校として、生徒が将来、幅広く音楽専門家として活躍し、世界の文化の発展に貢献できる人となるための基礎力を培う。
- ・国立をのぞく公立の音楽高校としては、全国で唯一の音楽科単独の高校である。

【取組内容】

- ・地域の方とともに「京都市異音楽フェスティバル」を年1回実施。グラウンドでは、地元の方の様々なジャンルの音楽演奏や模擬店、ホールでは本校生徒のオーケストラ・合唱のほか、地元PTAコーラス、京都市少年合唱団、京都子どもの音楽教室等の多彩な演奏を市民の方に楽しんでもらっている。
- ・年間数回、地元の方も含めた実行委員会で、同フェスティバルの運営について話し合っている。
- ・地元の方に向けた「敬老の日コンサート」「ひなまつりコンサート」に卒業生や生徒が出演している。
- ・「現代社会」の授業では模擬投票に取り組む。

・新しい「総合的な探究の時間」の試行として「日本と音楽」という大テーマの下、1年生が各自「問い」と「仮説」を立てて検証、考察、発表する活動に取り組んだ。

・数年前、本校生徒が塔南高の校歌CD制作を行い、伏見工業高（現・京都工学院高）住環境システムコースの生徒が本校の校地の一角に憩いのスペースを設計するという連携があり、市立高校間の生徒の交流が生まれた。今年は堀川高の校歌CD制作を行う。

・毎年4月に京都市図書館4館での「0歳からの絵本コンサート」に有志の生徒が協力し、司書の方の読みきかせに演奏で参加するボランティアに取り組んでいる

【その他、課題等】

- ・音楽の学習は、練習に非常に多くの時間をかけなければならないが、地域の活動にはなかなか参加できていない。（その分、地元の方々の日頃の応援やご協力に対しコンサート等を通じて音楽をお届けすることに取り組んでいる。）
- ・今年度、学校運営協議会を設置し、市内の小中高大の音楽関係者や音楽関係機関に参加してもらい、京都市の音楽文化の発展に向けて取り組もうとしている。

堀川高校

【特色・方針】

・自分が知りたいと思うことを見つけ、明らかにしていく「探究」を特色とし、多様な価値観に触れ、対話を通じて相互に受け入れることができる「豊かな学校」を目指す。

【取組内容】

・探究の授業は、1年生の前期で探究の基礎を学び、後期はグループに分かれて実験的に取り組み、2年生は各自でテーマ設定をして進めていく。

・探究の授業も研修旅行も生徒がグループを立ち上げ、計画・振り返りや連絡調整を自分たちで行っている。組織作りから始め、対話しながらマネジメントも行っている。自分がやることで周りも変わる実感が得られる。

・土曜日に中学生を対象に探究を知ってもらうワークショップ「探究道場」を開催している。生徒が自分たちの探究の取組について言葉で説明するのは意外と難しく、生徒にとってもプラスになっている。

・論文作成を経験した大学院生にT Aとして探究の授業を手伝ってもらっている。

・昨年度、市職員に来てもらい対話型パブコメを実施した。自分が出した意見が取り入れられる経験をするのも良いと思う。

【その他、課題等】

・企業やNPO等とのつながりは少ないが、来年度以降の授業に向けて連携先は必要だと考えている。

・NPO団体に限らず、市の職員に話に来てもらい、具体的な仕事の様子を聞いて、実際の職員と話ができるのは生徒にとっても面白いと思う。

・生徒にとっては、市役所職員がどのような課題に対してどのようなモチベーションで、どのように解決したというような話をしてもらうと刺激になる。

・目標を立てて、やってみて、うまくいかなかったらまた別の方法でやってみるのが大事。勉強や取組に対するモチベーションの向上にもつながる。

日吉ヶ丘高校

【特色・方針】

・「世界をつなぐ越境者」を生徒像として掲げ、社会を分け隔てている性別、国籍、人種などの境目を超えてつながる、という価値観を広げることとしている。

【取組内容】

・2年生が研修旅行先で、廃校となった高校跡地を活用したまちおこしを考えた。企業にプログラムを作ってもらい、跡地活用に向けて脱炭素社会、サーキュラーエコノミーなどをも勘案したアイデアを考えた。

・総合的な探究の時間には、SDGsの17のゴールを学びのきっかけにし、社会課題を知る活動や、高校生なりの解決策を提案する活動をしている。

・TAの方に来てもらって、探究の授業を手伝ってもらっている。教職を目指されていて熱意がある。

・企業、NPO等との連携にも力を入れており、先方へのアポ取り、訪問目的の説明などを生徒に経験させている。また、出前授業などもしてもらっている。

・政治的教養の授業では、弁護士による生活関係の法律、消費者として注意する点などを学べる講座を開催した。

・英語村「HELLO Village」を学内に設けて、英語というツールで何ができるかを学んでいる。

【その他、課題等】

・教員の負担増は問題であるが、教員が生徒を最も理解しているとの意識があるため、外部の連携先にプログラムの企画を完全に任せるのではなく、教員の勤務条件の中で時間を作って関わりたい。

・市の事業の資料があれば助かる。先生方も前向きに取り組んでおり、いろんな情報を知りたがっている。

紫野高校

【特色・方針】

- ・「一歩踏み出すGlobal Citizen」
- ・SDGsをテーマとした教育を特色としている。

【取組内容】

- ・学校周辺に寺社仏閣があることから、総合的な探究の時間を活用して、１年生はフィールドワークを行い、大徳寺や今宮神社などの歴史的な成り立ちや由来、行事などを調査・発表する。２年生は、個人で課題を設定して研究、発表する取組を行っている。
- ・SDGsを特色としているため、総合的な探究の時間は独自に作成したテキストを活用している。
- ・「公民」の現代社会の項目で、主権者教育にあたる内容を実施している。
- ・「実践社会」では、シチズンシップ教育、コンピテンシー能力、SDGsカードゲーム、模擬投票、模擬国連などを行っている。ワークショップ形式での実施も多い。

・SDGsカードゲームのファシリテートには、資格が必要であるため、教員が資格を取得した。

・サステナブルな取組をされているアパレル企業の方にコーディネーター役として授業を行ってもらった。

・いくつかの単元では、大学の研究室で大学の先生の講義や実験・実習を受けさせてもらっている。大学院生にTAとして生徒に個別にアドバイスをしてもらっている。

・地域のお祭りや清掃活動などのお手伝いをしている。

【その他、課題等】

・自治連や区役所との関係性を持っていないが、新学習指導要領の実施に向けて関係性づくりをしていきたい。

・北区内で顔つなぎや情報共有の場があるとよい。

・ゲストスピーカーや外部との連携などでは、継続的なアドバイスをいただける、若手の新たな連携先の開拓の必要性を感じている。

塔南高校

【特色・方針】

- ・「なりたい自分」を探し、深める
- ・コミュニティ・スクールとして、地域連携を特色に掲げている。

【取組内容】

- ・教育みらい科のカリキュラムでは、小学校で学校現場実習を実施している。
- ・ふれあいトークに参加して中学生や地元の方と交流したり、小学校で防災キャンプを小学生と一緒に取り組んだりしている。
- ・大学生を中心としたNPO団体に選挙に関する授業の協力を依頼し、政治的教養を育む取り組みを実施している。
- ・社会人はどんな意識で働いているかを学ぶため、企業訪問を行う「未来デザインプログラム」という取組を実施している。単なる訪問ではなく、事前の経営者による講話やマナー講座等を経て、本番を迎える。企業開拓は、中小企業家同友会や高校コンソーシアム京都に協力を依頼した。

・学区の一斉清掃や図書館でのイベントに、有志や部活動が参加している。

・防災ボランティアリーダー（任意）が地域の防災イベントで活躍している。「防災」をキーワードにすることで、理系の生徒も文系の生徒もアプローチしやすい。

【その他，課題等】

- ・地域での活動は、土日祝が主な活動日となる。働き方改革と教員の休日出勤の両立が困難である。
- ・有志で集まる生徒はモチベーションが高く、自主性が高い。それらの活動をカリキュラム化することで、多くの生徒に学びの機会を広げられるが、もともとの良さが失われる可能性がある。
- ・主体性を育成するのは大切で、生徒が自主的に作った企画の方はおもしろい。教師が意見するとおもしろくなくなる。
- ・生徒のポスター発表の機会に、外部評価者として参加していただけると生徒の学びの機会が増える。